

五

蘭印問題

1 大戦勃発に伴う蘭印保全と対蘭経済要請

371

昭和14年9月1日

阿部外務大臣より
在オランダ石射公使宛(電報)

蘭印重要物資の対日供給保障につき蘭国の了

解確認方訓令

付記

昭和十四年二月二十七日発在オランダ萩原(徹)

臨時代理公使より有田外務大臣宛電報第一七号

右保障問題に関する来栖大使と蘭国外相との

会談内容について

本省 9月1日後9時発

第六七號

貴電第九九號ニ關シ

今般ノ輸出禁止ハ蘭印ニハ關係ナシト認メラルト共ニ石油其他重要原料品ニ就テハ本年二月來栖大使ニ對スル前外務大臣ノ内話(貴電第一七號)モアリ禁止措置ニ出ル事ナカルヘキモ念ノ爲メ新外相又ハ政務局長ヨリ改メテ諒解取付方御努力ノ上結果回電アリ度シ

「バタビヤ」へ轉電セリ

貴電第一七號「バタビヤ」へ暗送アリ度シ

(付記)

ハーグ 2月27日後発

本省 2月28日前着

第一七號(極秘)

往電第一一號ニ關シ

當國外相ノ「ブラッセル」公使時代特ニ昵懇ナリシ來栖大使ハ用務ヲ利用シ來遊方同外相ノ豫テヨリノ勸誘ニ基キ廿五日來海セラレ會食ノ機會ニ同大使ヨリ自分カ一月中旬倫敦ニ於テ石油關係ノ英國實業家連ト會見ノ際先方ヨリ日本ノ石油法ニ對スル苦情ヲ述ヘタルニ付英國側ニテ石油不賣ノ如キ對日經濟壓迫ヲ云々シ居ル様ニテハ石油法調整ノ如キハ問題トナラサルヘク且第一英國系會社カ英政府ノ意思ニ依リ石油不賣ヲ爲ストスレハ生産地ヲ領有スル第三國殊

ニ和蘭邊ノ嘸迷惑トスル所ナルヘシト述ヘタルニ右實業家ハ經濟壓迫云云ノ如キ新聞ノ議論ハ自分等モ困リ居ル旨ヲ述ヘ居タルコトアリトノ話ヲ外相ニセラレタル處外相ハ「ローヤルダツチ」ハ和蘭資本六割ヲ占メ居リ同社力不賣等ヲ爲ス筈ナク和蘭政府トシテモ和蘭トノ戰爭ノ場合ノ外ハ日本ニ不賣ヲ認ムル筈ナシト述ヘ更ニ大使ヨリ和蘭力客年聯盟理事會ノ際對日制裁ニ參加スルコトナカルヘキ旨保障セラレタルコトハ承知シ居ルモ更ニ此ノ際石油其ノ他ノ資源ノ如キモ明カナル保障ヲ與フルコト對日政治的及經濟的關係調整上緊要ナル旨ヲ說示セラレ(外相同感ノ意ヲ表ス)本官ヨリモ客年末或種蘭印產品ノ輸入ニ付日本ニ要求ヲ爲サレタルコトハ最近ニ至リ承知セルカ要スルニ蘭印ノ賣リタキモノヲ列舉セラレタルニ止マリ日本力戰時輸入ノ必要ナキモノト資源トシテ必要ナルモノトヲ了察シ居ラレサルヤニ認メラルルト述ヘタル處外相ハ蘭印ノ事情モ了解アリタキモ日本側ノ話モ能ク了解セル旨答ヘ居タリ

客年往電第一一八號ノ次第ハアルモ今後トモ右來栖大使ノ會談ノ筋ヲ辿リ他國ノ策動ニ應シ和蘭側力經濟壓迫等ニ參加スルコトナカルヘキ旨ハ明言セシメ置ク様話合ノ所存ナ

ルモ右不取敢

英ヘ轉電シ白ヘ暗送セリ

~~~~~

372

昭和14年9月5日

在オランダ石封公使より  
阿部外務大臣宛(電報)

蘭印重要物資の対日供給保障につき蘭国意向  
を同国外務省へ照会について

ハーグ 9月5日後発

本省 9月6日夜着

第一一三號

貴電第六七號ニ關シ

一、往電第一七號會談後三月八日定例會見ニ於テ萩原ヨリ前外相ニ對シ來栖大使ト貴外相トノ話ハ私的性質ノモノトシテ報告ヲ差控ヘ居タルモ「日蘭間ニ戰爭ナキ限り日本カ他國ト交戰中ト雖石油等ノ物資ノ購入ヲ差止ムルコトナカルヘク和蘭領域内ニ於テ英國石油會社其ノ他ノ外國商ノ對日不賣ハ許ササルヘシ」トノ保障ハ帝國政府ニ於テモ興味ヲ有スヘキニ付右外相ヨリ代理公使ニ對スル言明トシテ報告シ差支ナキヤト申入レタルニ外相ハ異存ナ

1 大戦勃発に伴う蘭印保全と対蘭経済要請

キ旨ヲ述ヘタル経緯アリ

三、四日萩原ヨリ政務局長ニ右ノ経緯ヲ説明シ此ノ際改メテ保障ヲ得度キ旨ヲ申入レタル處對日壓迫等ヲ爲スコトナシトノ意味ニテ前外相ノ言明ハ尤モナルカ今日ノ如キ事態ニ於テ或種ノ食料等ヲ留保スル必要生スルコトアルヘキハ了解セラレタク新外相ト相談ノ上何分ノ回答ヲ爲スヘシト述ヘ居タリ

三、右會談後「バタヴィア」發貴大臣宛電報第二六八號接到セルニ付通商局長代理及「ハルト」ニ説明ヲ求メタル處大體「バタヴィア」發貴大臣宛電報第二七〇號ト同様ノ説明ヲ爲シ居タリ

四、其ノ後外務省ハ英獨飛行機和蘭領空侵害問題ニ忙殺セラレ居ルラシク未タ政務局長ヲ「キヤツチ」シ得サルモ右不取敢

「バタヴィア」ヘ轉電セリ

~~~~~

373

昭和14年9月14日

在オランダ石射公使より
阿部外務大臣宛(電報)

蘭印重要物資の対日供給保障に関する蘭国回

答について

第一三九號

往電第一一三號ニ關シ

政務局長ヨリ十三日萩原ニ對シ新外相ニ於テ中立法規ニ抵触セサル限り前外相ノ保障ヲ維持スル旨回答アリ外相モ同日定例會見ニ於テ同様ノコトヲ言ヒ居タルニ付萩原ヨリ中立法規云々ノ説明ヲ求メタルニ最近西印度ニ於テ石油積取ニ入港セル英佛側軍艦ノ入港ヲ拒否セル例ヲ舉ケ萬一日本カ交戰國トナリタル場合本件言明カ中立法規ヲ變更スルモノニアラサルハ勿論ニシテ和蘭トシテハ目下中立法規ヲ最大關心事トスルモノナルコトヲ言ハントスルノミナリ

不明
□□リ

中立法規ハ交戰國軍艦ノ本國及殖民地領海立入ヲ禁止シ且領海附近ニ在ル交戰國軍艦其ノ他ニ領域内ヨリ直接軍需品燃料等ヲ供給シ又ハ其ノ明瞭ナル目的ヲ以テ領域内ニ之ヲ貯藏スルコトヲ禁シ居ルコト往電第一一八號ノ通りニシテ商船ニ依リ自國ニ持歸ルコトハ交戰國トシテモ差支ナキ次

ハーグ 9月14日後發

本省 9月15日前着

第ナリ

「バタヴィア」へ轉電アリタシ

~~~~~

374 昭和14年10月2日

野村外務大臣より  
在オランダ石射公使宛(電報)

蘭印領土保全に関する蘭国意向探查方訓令

付記 昭和十四年八月三十日發在オランダ石射公使

より阿部外務大臣宛電報第一〇〇号

条約による中立保障を蘭国は望まないなど同

国外相の記者会見内容について

本省 10月2日發

第一一七號(極祕)

貴電第一〇〇號ノ一、ニ關シ

和蘭ガ其ノ中立ヲ他國ヨリ條約的ニ保障セラルル事ヲ希望  
セサル態度ハ蘭本國ニ關スル限り了解シ得ル所ナルガ若シ  
右ガ蘭印ニ關スル場合ニハ其ノ間自ラ異ナルモノアルベク  
例ヘバ同系統ノ思想ヨリ現在ノ時期ニ於テ帝國ガ蘭印ノ領  
土保全ヲ條約ニ依リ再確認スルガ如キ場合ヲ假定スルニ  
(蘭印ノ領土ガ一方的ニ尊重セラレ居ルコトハ御存知ノ通)

右ニ對スル同國側ノ反響ハ斯ク冷淡ナラザルベク從ツテ同

國側ノ對價ノ提供モ相當期待シ得ルガ如ク思考セラル、處

右ノ如キ場合ニ於ケル同國側ノ態度ノ見透シ如何

ニ和蘭ハ現時局ニ於テ自然蘭印ノ保全ニ付英國ノミナラズ

米國ニ依存スル傾向漸次増大スルモノト思考セラル、處右

ニ付和蘭側ニ於テ米國ニ對シ直接ニ又ハ英國ヲ通ジ積極的

ニ工作シ居ルガ如キ形跡ナキヤ

右ニ點可然御內探ノ上結果同電アリタシ

英、米、「バタビヤ」へ轉電セリ

(付記)

ハーグ 8月30日後發

本省 8月31日前着

第一〇〇號

外相定例会見ニ萩原ヲ出席セシメタル處(本使尙引籠り中)

外相ハ

「和蘭ハ「ロカルノ」以後モ英佛及獨ト種々ノ條約關係ヲ  
有スル白耳義ト異リ他國ヨリ中立ヲ條約的ニ保障セラル  
ルコトヲ希望セス一方的中立尊重ノ申出ニハ殆ト價值ナ

ク獨ノ申出ハ聞キ置キタルモ英佛ヨリ白ニ對スルト同様ノ中立尊重ノ申出ナカリシハ英佛カ右和蘭ノ態度ヲ熟知シ居ル爲ニシテ之ヲ以テ英佛ニ和蘭侵略ノ意思アリト爲ス獨逸新聞ノ記事ハ當ラス

二、和蘭ノ提議ハ當事國ニ於テ之ヲ希望スルニ於テハ仲介ナリ調停ナリヲ爲ス用意アル旨ヲ申入レタルモノニシテ未タ英佛ヨリハ回答ナキモ佛ヨリハ如何ナル解決法ニモ贊成ナル旨波蘭ヨリハ米大統領宛回答ヲ引用シ平和的解決ノ用意アルモ獨逸側ノ態度ニ鑑ミ差當リ右以上ノ具體的  
回答ヲ爲シ難キ旨獨逸ヨリハ感謝ヲ以テ「テークノート」ヲスル旨回答アリ未タ英獨間ニ直接交渉行ハレ居ルニ付右ノ如キ回答ニテ満足シ居レリ

ト述ヘ居タル由何等御參考迄尙伊太利公使ハ白、蘭ノ提議ハ皇帝及女皇間ニ直接電話ニテ話シタル上發意シタルモノノ如ク蘭トシテハ白ニ對スル急キノ問題モアリタルモノナルヘシ尙伊ハ戰爭ヲ欲セストノ印象ヲ與ヘル惧アルニ付蘭白ヘノ回答ヲ遲ラセ居ルモノナルヘシト言ヒ居レリ  
在歐洲各大使ヘ轉電セリ

375

昭和14年10月6日

在オランダ石射公使より  
野村外務大臣宛(電報)

# 蘭印保全に関する蘭国意向につき報告

ハーグ 10月6日後発

本省 10月6日夜着

第一八二號(極秘)

貴電第一一七號ニ關シ(蘭印ノ領土尊重ニ對スル蘭本國ノ態度ニ關スル件)

一、四日(右御訓令接到前)萩原政務局長ト會談ノ際萩原ヨリ蘭印當局殊ニ其ノ下級官吏及蘭印新聞ノ對日猜疑的態度ハ手ノ付ケ様ナク去リトテ蘭側ハ不可侵其ノ他ノ「ガランテイ」ノ條約ハ締結セス一方的「アシユアランス」ハ殆ト無價値ナリト言ハルル以上日本側ニテ安心ヲ與フル方法モナキニアラスヤト本件ニ言及セル處同局長ハ保障問題ニ付大體大臣ト同様ノ趣旨(往電第一〇〇號)ヲ述ヘ一千九百三十七年獨逸ノ保障申出テヲ斷リタルモ今回ハ今次戰爭ニ際シ和蘭ヲ侵害セストノ特定ノ事態ニ對スル ad hoc ノ保障ナラハ可ナリトノ意見ニテ獨逸次テ英佛ヨリノ中立尊重ノ申出ヲ受理セル次第ナルカ日本ヨ

リ今特ニ「アド、ホック」ノ保障ヲ受クル理由ナカルヘ  
キヤニモ考ヘラルルモ豫テノ貴見通り既存ノ仲裁調停條  
約ヲ周知セシムルトカ文化關係ヲ促進スルトカニ依リ不  
安ヲ解消スル様心掛ケ度ク新聞ノ問題モ例ヘハ日本側ニ  
テ「オーソリティブ、ソース」ノ報道等トシテ

疑惑解消ニ資スル報道ヲ發セラルルヲ得ハ出來得ル限り  
之ニ大キク掲載スル様努ムヘシト述ヘ居タルカ其ノ口吻  
ヨリ必スシモ保障ヲ拒否スル様ニモ見受ケラレサリシ趣  
ナリ

二、「エチオピア」問題致國問題「ミュニツヒ」會商ニ於テ  
蘭印カ問題トナリタリトノ噂等ヨリ或程度ノ英國恃ミ難  
シトノ感ヲ抱キ寧ロ米國ニ望ヲ掛ケントスルノ心持(例  
ヘハ米艦隊ノ太平洋移動ヲ内心喜フカ如キ)アルコトモ  
亦英ニ對シ無意識的ニ信頼心ヲ有スルコトモ事實ナルカ  
戰爭開始以來通商關係其ノ他ヨリ必スシモ對英感情好カ  
ラス(往電第一八〇號)又戰爭開始以來交戰國ト一切ノ  
「コミットメント」ヲ避ケントスル警戒心亦強キモノア  
リ英國ヲ通シテト云フコトハ殆ト考ヘラレス米國ト直接  
ニモ別段其ノ氣配無ク少クトモ和蘭側ヨリ「イニシアチ

ーブ」ヲ取ルコトハ考ヘラレス英國又ハ米國カ積極的ニ  
或種ノ對日政策ヨリ和蘭引込ヲ考ヘ居レリトスルモ和蘭  
カ簡單ニ之ニ應スルヤハ疑問ナルヘシ今後トモ充分注意  
致スヘキモ不取敢

英、米、「バタヴィア」ヘ轉電セリ

~~~~~

376

昭和14年10月8日

在オランダ石射公使より
野村外務大臣宛(電報)

蘭印をめぐる日蘭間の感情融和に関し蘭国外
相と意見交換について

ハーグ 10月8日後発

本省 10月9日後着

第一九〇號

第七日本使病後始メテ新外務大臣ヲ往訪會談要領左ノ如シ
一、本使ヨリ自分ハ蘭印旅行中モ又着任以來モ蘭印官憲ノ居
留日本人ニ對スル措置ニ付幾多ノ苦情ニ接シ居リ追放、
郵便檢閲、呼寄困難ノ如キ其ノ例ニシテ右ハ蘭印官憲ノ
日本ニ對スル神經過敏ヨリ發セラルルモノト認メラルル
處蘭印側ノ措置振ハ日本居留民ヲ神經質ナラシメ夫レカ

直ニ日本ニ反映スル結果蘭印ノ爲ノ海軍擴張ノ如キモ日本ニ惡印象ヲ與ヘ或ハ和蘭ハ蘭印防禦ニ付米國ノ助力ヲ求メ居レリ等ノ説モ日本ノ一部ニ行ハルルニ至レリ斯クノ如キ神經過敏ヤ不愉快感ノミカ存在シテ居テハ日蘭ノ關係カ氣不味クナル一方ナルニ付何等カ兩國間ニ於テ「ステツプ」ヲ執リ空氣ノ改善ニ資スル必要アリト常ニ考ヘ居タル次第ナルカ例ヘハ追放ニシテモ當局ヨリ事前ニ日本領事ニ事情ヲ話シ當該日本人カ再ヒ好ミシカラス行動ヲ繰返ス時ハ追放處分ヲ爲スヘキ旨領事ニ指示警告ヲ與ヘラルル時ハ日本領事ハ之ニ應スヘク又使用人ノ呼寄ニ付テモ先ツ日本領事カ調査ノ上呼寄尤モナリトシテ「レコメンデーション」ヲ附シタル者ヲ受理シ而モ尙許可不適當ト認ムル者ハ領事ニ其ノ理由ヲ示ス等蘭印當局カモツト日本領事ヲ「コンヒデンス」ニ引キ入レテ措置セハ餘程圓滑ニ行キ日本居留民ノ不安モ除カルコトト思ハルルニ付此等ノ問題ヲ「カバー」スル一ノ紳士協約テモ出來レハ空氣好轉ノ助トナルヘシ貴見如何ト述フ（尙本使ハ蘭印入國制限令ニ付テハ日蘭通商條約ニ基キ武富公使時代抗議申入レ置キタル等ナルカ日本政府ハ主

義上此ノ抗議ヲ維持シ行クヘキモ本使トシテハ之ヲ今「レバイブ」セス制限令ノ範圍ニテ御話シタル次第ナリト附言シ置ケリ）

二、⁽²⁾ 外相ハ貴見大體同意ナリ日本人關係ニ付テハ出來得ル限り圓滿ヲ期スル考ナリ實ハ一兩日前外務省ヨリ植民省ニ對シ蘭印ノ郵便檢閲ニ無用ノ時間ヲ取ラス様又「アンデザイアブル」日本人ニ付テハ事前ニ日本總領事ヲ通シ警告ヲ與フ様蘭印政府ニ通達方書面申入ヲ爲シタル次第（右ハ往電第一三八號及第一七〇號萩原「フアンロウエン」會談ノ結果ト思ハル）ナルカ茲ニ一言ノ必要アルハ日本側ニ於ケル對蘭印ノ言論ナリ日本ニ於ケル對南「キヤンペン」ニ携ハル人々中蘭印ニ關シ不穩ノ意見ヲ吐キ新聞紙モ蘭印ニ非難ヲ加ヘテ憚ラヌコトナリ過般ノ「フオーレンアフエヤ」協會雜誌ノ如キ又最近接到報告ニ依レハ八月二十二日ノ「ジャパンタイムス」倫敦及馬尼刺ト題スル論說中ニ蘭印土人ハ奴隸ノ生活ヲ押附ケラレツツアリト評セリトテ「タイムス」ノ切抜ヲ取寄セ提示ス斯ノ如キ言論カ行ハレ居テハ空氣改善モ實現シ難キニアラスヤ此ノ點ニ付貴公使ノ注意ヲ喚起セサルヲ得スト言

フ

三、本使ハ日本ニハ「システマテイク」南方「キャンペン」ハ存在セス不穩ノ言動ハ宣傳ノ爲行ハルル場合多シ右「タイムス」ノ論說ハ遺憾ナルカ日本側ヨリ言ヘハ蘭印新聞ノ日本非難ヲ舉ケサルヲ得ス最近ニ於テモ蘭印紙ハ防共協定崩壞ヲ以テ日本ヲ嘲笑ヒ日蘇停戦スレハ日本ハ其ノ餘力ヲ以テ南進ス要心セサルヘカラスト論ス非難ハ御互様ナレトモ御互ニ之ヲ止ムルニシテモ兩國間ニ良好ナル空氣カ醸成セラルルコトカ前提ヲ爲スモノト思考ス之カ爲紳士協約ノ「アイデア」ハ日本政府ノ訓令ニ依ルモノニアラス唯今ハ本使一個ノ案ニ留ルモノナリト述ヘ四、⁽³⁾外相ハ紳士條約ノ可否ニ付明答ヲ與ヘサリシモ貴公使ノ空氣改善希望ハ自分ノ最モ歡迎スル所ナリ但シ此ノ目的ノ爲ニ講セラルル措置ハ相互的基礎ニ於テ取ラルルコトヲ條件トシ今後共貴公使ノ申出テニ應シ意見ヲ交換スヘシト述ヘタリ尙本使ヨリ前外相トノ間ニ會談シタル文化協定モ空氣改善ノ助トナルヘキ處前内閣ノ方針ハ現内閣ニ於テモ變リナキヤト尋ネタルニ外相ハ右ハ變リナク其ノ實現ヲ希望ス但シ植民地ヘノ適用ハ相談ニ應シ難シト

言ヘリ

五、次テ政務局長ニ對シテモ右外相ヘノ申入レヲ要約シテ申入レタル二局長ハ貴見ノ次第八大臣トモ良ク話合フヘシト約セリ尙局長ハ「タイムス」ト日本政府トノ關係ニ鑑ミ同紙ノ論說ノ如キハ日本政府ニ於テ充分取締ラレンコトヲ要請スト述ヘタルニ付本使ハ貴意ニ副フ様政府ニ上申スヘシト答ヘ居ケリ

「バタヴィア」ヘ轉電アリタシ

377 昭和14年10月8日

在オランダ石射公使より
野村外務大臣宛(電報)

現状では蘭印保全の条約締結に蘭国が応じる
見込みはないとの観測報告

ハーグ 10月8日後発

本省 10月9日前着

第一九一號(極秘)

貴電第一一七號ニ關シ(蘭印ノ領土尊重ニ對スル蘭本國ノ態度ニ關スル件)

一、往電第一九〇號外相ト會談中本使ヨリ蘭國カ自己不可侵

保障ニ關シ外國トノ約束ヲ欲セストハ如何ナル理由ナリヤト尋ネタルカ外相ハ理由ハ簡單ナリ和蘭ハ白耳義カ其ノ獨立以來英獨佛等ヨリ不可侵ノ保障ヲ受ケタルカ爲之等諸國ノ一舉一動ニ依リ却テ不安ヲ感シ遂ニハ獨逸ニ依リ侵犯セラルルニ至レル事ヲ「レツスン」トシ又保障約束力更新セラレサル場合ノ惡結果ヲ豫想シ保障約束ヲ忌避スルモノニシテ之此ノ四年間ニ「ヒットラー」政府ヨリ二度モ不可侵ヲ約束方申込アリタルモノヲ斷レル次第ナリ此ノ方針ハ和蘭ノ「オリヂナリテイ」ト言フヘキモノニシテ今日ハ瑞典諾威モ之ヲ採用セルカ如シト説明セリ蘭政府ノ意嚮ハ右ニテ明カト言フヘク本國ト蘭印トヲ區別シテ考量ノ餘地モ理由モ存シ得サルヘシト認メタルヲ以テ本使ハ植民地ニ付テハ遠廻シニモ言及スルヲ見合セタリ

二、蘭印防禦ノ爲米國ノ援助ニ付テハ外相ハ貴公使ハ斯ノ如キ事ヲ信セラルルヤト詰リ斷シテ左ル事ナシト否定シ之ヲ耳ニスルモ快シトセサル表情ヲ示セリ

三、和蘭ハ戰時中立ハ勿論平時ニ於テモ強國ノ敵意ヲ買フカ如キ協定ハ何レノ國トモ之ヲ避クル事ヲ以テ保身ノ術

ト心得居ルモノニシテ餘程ノ窮境ニ陥ラハイザ知ラス現在ノ如キ國際情勢ノ程度ニテハ貴電御來示ノ如キ約束ノ申出ニハ到底應セサルヘシト思考ス假ニ應スルトシテモ我申出ニ感シ進ンテ對價ヲ提供スル意氣ノ持合セヲ期待シ得ス又我方ヨリ對價問題ヲ切出ス時ハ腹ヲ見透サレタル上「バーゲン」ニハ應シ得スト(不明)惧アリ然リトテ今日ノ國際情勢下ニ於テ強力ヲ用ヒテ一氣ニ南方問題ヲ解決セントセハ英國少クトモ米國ハ頼マストモ横槍ヲ入レテ我出鼻ヲ挫カムトシ却テ南方ノ陣營ヲ堅クスルノ逆效果ヲ招クヘシ惟フニ當分我方ノ採ルヘキ政策トシテハ現在蘭印ニ於ケル居留民ノ爲ニ又既存事^(二字不明)□ノ取^(二字不明)□ノ爲ニ少シニテモ活路ヲ開ク事ニ止ムルヲ可トスヘシ此ノ見地ヨリシテ往電第一九〇號外相トノ會談ヲ開キタルモノニシテ今後何等カノ結果ヲ得ル迄進ミタシト存スル處右方針竝ニ會談繼續上ニ付テ心得ヘキ事アラハ早キニ及ンテ御指示ヲ請フ

四、夫レニシテモ我方人士ヤ言論機關ノ放慢ナル對蘭印言動ハ日蘭平常ノ關係改善ニ障害トコソナレ何等益スル所ナキモノナレハ慎重御取締アランコトヲ切望ス要ハ凄味ハ

充分之ヲ保存シ適切ナル時期ニ其ノ閃キヲ見セツツ先方
ヲシテ自己修正ヲ爲サシムルニアリト存ス

「バタヴィア」、英、米へ轉電セリ

~~~~~

378

昭和14年11月11日

在バタビア齋藤(首次)総領事より  
野村外務大臣宛(電報)

### 蘭印保全問題に関する米國総領事の内話につ

いて

バタビア

11月11日後発

本 省

11月11日夜着

第四二六號

往電第四二五號ニ關シ

一、昨十日米國總領事ヨリ晚餐ニ招待セラレタル際(本官夫妻ノミ)談偶々獨逸ノ和蘭侵入ノ場合ニ於ケル蘭印ノ立場ニ及ヘル處同總領事ハ英國勢力ノ蘭印ニ伸フルコトハ和蘭ノ極力厭忌スル所ナルヲ以テ和蘭ハ假令英國カ同盟國トナルモ英國ヲシテ蘭印ノ保護者タラシムルカ如キコトハ絶對ナカルヘシト述ヘタルニ付本官ハ然ラハ米國カ英國ニ代ルハ如何ト質シタルニ米國ハ護謨及錫ノ供給ヲ

蘭印ニ頼ルノミニテ何等其他意ナク且又比律賓ニ對スル例モアリ極東ニ於テ此ノ上紛レヲ求ムニ意嚮ナク結局蘭印ハ一種ノ獨立國ノ體裁ヲ成スニ非スヤト思考セラルル處唯自分一己ノ想像ニシテ何等國務省ヨリ情報ヲ受ケタル譯ニハ非サルモ華盛頓及海牙間ニ何等カノ交渉力行ハレツツアリトノ印象ヲ受ケ居ル旨述ヘ居タリ(此ノ點米國總領事ノ立場モアリ絶對極秘)

二、尙最近獨逸總領事ハ本官ニ對シ蘭印カ新嘉坡及濠洲間ノ飛石タルコトヨリ假令友好關係ニアル米國ト雖モ他ノ強國カ蘭印ヲ占據スルコトハ英國トシテ絶對ニ拒否スル所ナルヘク一方蘭印モ亦英國カ蘭印保護ノ任ニ當ルモ將來支拂フヘキ代價ヲ考フ時ハ容易ニ之ヲ許ササルヘク結局蘭印ハ獨立國ノ如キモノトナルヘシトノ趣旨ヲ述ヘ居タリ

蘭、英、米へ轉電アリタシ

~~~~~

379

昭和14年11月11日

在オランダ石射公使より
野村外務大臣宛(電報)

蘭印保全の条約締結を蘭国へ申入れ方請訓

ハーグ 11月11日後発

本省 11月12日前着

第二六〇號(極秘、館長符號扱)

一、今後ノ政局ハ壽府發往電第二一八號獨逸總領事内話ノ如ク「一」「ヒ」總統ノ決意ニ懸ルノ段階ニ達シ居ルモノト當方ニ於テモ判斷シ居ル次第ニテ「ヒ」ニ於テ大攻勢ニ決意セル場合其ノ對英作戰ノ必要上蘭國ハ卷添ヲ免レスト見ルコト最モ相應ハシク思ハルル處「ヒ」トシテハ成ルヘクナラハ無抵抗和蘭占據ヲ策シ居ルコトモ亦推測ニ難カラス

二、往電第二五七號ノ緊急閣議ノ内容ハ外務省ニ於テハ口ヲ緘シ居ルモ獨逸側ヨリ作戰便宜供與ノ申込ヲ受ケタルカ或ハ平和提唱カ效果ナク危險切迫ト見テ愈々防戦ノ臍ヲ固ムルカ爲カハ推測セラル

三、和蘭カ防戦後獨逸軍ニ占據セラレタル場合蘭政府ハ其ノ機能ヲ失ヒ蘭印ハ少クトモ一時母體ヨリ政治上經濟上孤立ノ状態ニ陥リ從テ其ノ對外關係モ變調ヲ來スモノト思ハルル處其ノ際帝國ハ蘭印ニ對シ如何ナル態度ヲ執ルヘキヤ唯今ヨリ研究シ方針ヲ樹ツルコト徒事ナラサルヘシ

四、右ノ場合我カ權益擁護ノ名分ノ下ニ一時的ニ之ヲ占領スルコトハ所謂南進論者ノ大ニ歡迎スル所ナルヘキモ之カ實行ニ當リテハ必スヤ英米乃至佛等モ之カ對應手段ニ出テ宛モ鼓浪嶼ニ於ケル英米陸戰隊上陸ノ如キ事態トナルコトヲ覺悟セサルヘカラス其ノ結果米英佛等トノ抗争ニ迄發展スルカ或ハ三竦ミニ陥リ而モ蘇聯邦ノ波蘭占領以上ノ惡名ハ獨リ我方ニ歸スルコトナルヘシ

五、案スルニ帝國ハ和蘭カ獨逸ノ脅威ニ依リ風前ノ燈火然タル此ノ際貴電第一一七五御來示ノ如ク條約ヲ以テ蘭印尊重ヲ確認スル用意アルコトヲ和蘭政府ニ申入ルコト割切ナルヘシ(條約期間ハ歐洲戰爭結果迄トス又代償ハ成ルヘク具體的ニ持出サス蘭印トノ通商、邦人企業ノ便宜及居留民營業ノ改善等ニ付原則的ニ先方ヲシテ約束セシメ)先方カ之ニ應セサルトスルモ我方ノ南方發展カ領土の野心ヲ含マストノ我方從來ノ言明ヲ大イニ重カラシメ蘭印(ニ對シ)無用ノ神經過敏ヲ鎮靜セシムルノ效果アルヘシ而シテ蘭印カ對獨戰ノ結果本國ヨリ孤立セル場合日本ハ南洋方面ノ平和及秩序維持ノ爲寧ロ進テ米國ヲ誘ヒ共同シテ蘭印ノ不可侵ヲ擁護スル旨宣言スルノ政策ニ出

スルヲ可トス(英佛等ヨリ參加申入アルトモ交戰國ナルノ故ヲ以テ斷リ得ヘシ)

六、右第五項ノ政策ハ甚タ迂遠ナルカ如ク見ユルモ之カ實現ハ將來蘭印ニ對スル我發言ヲ増大且重カラシメ長キ目ヲ以テ見ルトキハ必ス我ニ利益ヲ齎ス外差當リ左ノ效果ヲ期待シ得ヘシ

(一)帝國ノ度量ト道義外交ニ對スル世界的信頼

(二)日米協調ノ具トナルヘシ

(三)支那國民ノ心理ニ絶大ノ好影響ヲ與ヘ東亞新秩序ノ樹立ニ資ス所甚大

七、以上ノ政策ハ相手アルコト故筋書通りニ取運フヤ否ヤ逆睹シ難キモ帝國政府ニ於テモ此ノ方針ニ決定セラレ以テ外交ヲ打建ツルコト切望ニ堪ヘス就テハ前記第五項全般ニ付先ツ本使一個ノ發意トシテ當國政府ノ氣ヲ引キタシト考フル處差支ナキヤ御回電ヲ請フ

大臣ヨリ「バタヴィア」へ然ルヘク轉電ヲ請フ

英、獨、佛、白、米へ轉電セリ

380

昭和14年11月16日 野村外務大臣より
在オランダ石射公使宛(電報)

蘭印との經濟關係調整および欧州戰禍の蘭印波及
防止に関するわが方意向を蘭國へ申入れ方訓令

別電 昭和十四年十一月十六日發野村外務大臣より

在オランダ石射公使宛第一六三号

右申入れ案

本省 11月16日發

第一六二號

貴電第二六〇號ニ關シ

現下ノ蘭印問題ニ關シテハ當方ニ於テモ篤ト考慮ヲ加ヘタルガ此際我方ノ懸念スルハ和蘭ガ目下ノ急迫セル事態下ニ於テ從來ノ對日恐怖心ヨリ英米等ニ對シ萬一ノ場合ニ於ケル蘭印ノ保護ヲ依頼スルカ又ハ斯ル事ナシトスルモ何等カノ切ツ掛ケニ依リ英又ハ米等ガ之ニ武力的若クハ政治的措置ヲ加フルニ至ルコトナキヤニ在リ、右ニ付英來電第一四八四號及「バタビヤ」來電第四二六號等ノ次第ハアルモ現ニ米蘭間交渉ノ報道モアリ、萬一ニモ發生スルコトアルベキ前記事態ヲ未然ニ防止スルコトニ努ムルハ歐洲戰爭ノ禍

亂ガ東亞ニ波及スルヲ欲セザル帝國ノ立場ヨリ當然ノ義ニ屬スルモ此際和蘭政府ニ對シ我方ガ強力ヲ以テ其要求ヲ貫徹セムトスルモノナルカノ感ヲ與ヘザラムカ爲先ヅ經濟問題ヨリ初メ別電第一六三號ノ口頭申入ヲ爲スコト、致度ニ付至急右御取計アリ度シ

追而本件申入ガ關係列國ニ傳ハル際無用ノ誤解ヲ與ヘザル様考慮ノ要アル處右ハ蘭側ノ應酬振リヲ見タル上措置スルコト、致度

別電ト共ニ米ヘ轉電セリ

英、佛、獨、伊ヘ轉電アリ度

(別電)

本省 11月16日發

第一六三號

一、左記要領ニ依リ口頭申入ヲ行フコト

(イ)日蘭印經濟關係ニ付從來蘭側ヨリハ蘭印物產買付等ニ關シ希望ノ表明アリ、又我方ニ於テハ蘭印ニ於ケル輸入割當、邦人ノ企業、營業、従業員入國等ニ關シ事態ノ改善方要望シ來リタル次第ナルガ我方ハ其後慎重考

究ノ結果兩國經濟關係ノ圓滿ナル調整ヲ計ル爲メニハ此等諸般ノ問題ヲ一括シテ商議スルコト必要ナリトノ結論ニ達シタリ、就テハ此際右ニ關シ具體的交渉ヲ開始致度、幸ニ蘭側ノ贊同ヲ得バ我方ニ於テハ具體案提示ノ用意アリ

(ロ)然ル處歐洲戰爭ハ漸次擴大紛糾ノ度ヲ加ヘ來リ帝國ト親善關係ニアル貴國ニモ波及スルノ懸念増大シツ、アルガ如キ處萬一不幸ニシテ右ノ如キ事態發生スル場合ニハ蘭領印度モ交戰國葛藤ノ渦中ニ捲込マルル虞ナシトセズ、右様狀勢ノ爲メ東亞ノ平和ガ攪亂セラルルコトハ帝國ノ最モ好マザル所ニシテ我方ニ於テハ南洋ヲ含ム東亞全体ノ平和確保ヲ顧念シテ止マズ、尙帝國トシテハ蘭印トノ間ニ緊密ナル經濟的關係ヲ有シ之ガ維持増進ニ付深キ關心ヲ有ス、從テ今後歐洲戰爭ノ推移ニ伴ヒ蘭印ノ現狀ニ何等カノ變更ヲ加ヘラレ前記我方ノ立場ニ副ハザルガ如キ事態ノ發生ハ帝國ノ衷心ヨリ希望セザル所ニシテ我方ハ右様ノ事ナキ様貴國ニ於テ善處セラレ度旨要望スルモノナリ

三、右申入ニ對シ蘭側ガ我方ノ眞意ヲ疑ヒ我方ノ蘭印不侵略

ヲ要望スルカ又ハ之ヲ要望セズシテ米國等ノ保護ヲ求ムル氣配濃厚ナルガ如キ場合ハ我方トシテハ歐洲戰禍ガ蘭印ニ波及スルコトナク又第三國ト蘭印トノ間ニ特殊關係成立シ其結果蘭印ノ現狀ニ變更ヲ來スガ如キコトナク且我方ノ合理的ナル經濟的要望ガ達成セラルル限り適當ノ方法ニ於テ蘭印ノ安全保障方考慮スルモ差支ナキ旨可然表明スルコト

381

昭和14年11月17日 野村外務大臣より
在オランダ石射公使宛(電報)

蘭印との經濟關係調整および欧州戰禍の蘭印
波及防止に関するわが方意向を在本邦蘭国公
使館員へ説明について

本省 11月17日發

第一六四號

往電第一六二號ニ關シ

十日「パブスト」公使來省ノ節次官ヨリ日蘭兩國ハ今や視野ヲ擴大シテ日滿支對和蘭及蘭印ノ經濟關係ヲ相互ニ調整スヘキ時期ニ達シタルニ就テハ蘭側ニ於テモ右研究方希望

スル旨述ヘ置タル經^(編カ)違モアリ冒頭往電ノ次第ハ同公使ニモ通シ置クコト適當ト認メ十七日「レウフリン」書記官ニ對シ係官ヨリ往電第一六二號^(六三三)、(イ)及(ロ)ノ點ヲ貴使ヨリ和蘭政府ニ申入ル、コト、ナリタル旨説明セシメタル處「レ」ハ私見トシテ右様話合ノ行ハル、コトハ此際頗ル望マシキ次第ト思考スル旨述ヘ辭去シタルカ同日午後「パブスト」公使ニモ報告濟ノ旨電話越シ我方ノ眞意ヲ疑フカ如キ態度ヲ示ササリシ趣ナリ

382

昭和14年11月17日 在オランダ石射公使より
野村外務大臣宛(電報)

蘭印との經濟關係調整および欧州戰禍の蘭印
波及防止に関する對蘭申入れの再考方請訓

ハーグ 11月17日後發

本省 11月18日後着

第二八五號

貴電第一六四號ニ關シ(日蘭印國交調整ニ關スル件)

貴電第一六二號及第一六三號ハ十六日夜接到本使ニ於テ當地ノ空氣及從來ノ經緯ト御來訓ノ趣旨ヲ考慮シ更ニ一應意

1 大戦勃発に伴う蘭印保全と対蘭経済要請

見上申ノ上措置スル所存ナリシ處東京ニ於テ逸早く本件御訓令ノ内容ヲ先方ノ一書記官ニ御報知相成リタルハ更ニ本使ヨリノ意見上申ノ餘地ナカラシメラレタルノミナラス本使ニ於テ先方ノ眞意ヲ測リツツ申入ヲ爲ス餘地ナク且先方ヲシテ豫メ應酬ヲ準備セシメテ申入ノ效果ヲ減殺スルモノニシテ本使トシテ甚タ遣リニクキヲ感ス

本使トシテハ矢張り往電第二六〇號上申ノ通り先ツ帝國ノ公正ナル立場ヲ説明シ蘭側ノ窮狀ヲ「テーク、アドバンテージ」スルモノニアラサルコトヲ了解セシメタル上本使ノ私見トシテ蘭側ニ希望アルニ於テハ適當ノ方法ニ依ル保障方ヲ東京ニ「サジエスト」スルノ用意アル旨ヲ申入レ蘭側カ不安感ヨリ米國等ニ依存セントスル心持其ノモノヲ除去シツツ(若シ其ノ下心アリトスルモ遲延セシメ得ヘシ)徐々ニ工作ノ所存ナリシ次第ニシテ此ノ豫備工作ナクシテ御來示ノ一ノ(イ)及(ロ)ノミヲ申入ルルニ於テハ却テ逆效果ヲ生シ蘭印ニ於ケル警戒の態度ヲ増大シ又先方ニ惡意アレハ惡宣傳ニ利用セラルル惧レナシトセス

御訓令ノ趣旨ハ適當ノ機會ニ申入ルヘキモ右御再考ノ餘地ナキヤ御回電ヲ請フ

參考トシテ貴電ト共ニ英白ヘ轉電セリ

383

昭和14年11月22日

野村外務大臣より
在オランダ石射公使宛(電報)

蘭印との経済関係調整および欧州戦禍の蘭印波及防止に関する対蘭申入れの迅速実行方訓令

本省 11月22日午後3時0分発

第一七一號(極秘)

貴電第二八五號ニ關シ

一、日支事變勃發以來蘭側ハ「パブスト」公使ヲ通ジ主トシテ石澤「ハルト」覺書ニ基ク蘭印物産ノ買付ニ關シ又我方ハ輸入割當、従業員入國問題等ニ關シ最近迄屢次接衝ヲ重ネ來リタルハ御承知ノ通りニシテ日蘭印經濟關係ノ圓滿ナル調整ト第三國ノ對蘭印干涉防止以外ニ他意ナキ今次申入ノ要旨ヲ和蘭公使館側ニ通ジ置クハ從來ノ經緯ニ鑑ミ寧ロ自然的ニシテ貴方ノ御交渉上ニモ好都合ナルベシト思考シ右様取計ヒタル次第ナリ

三、歐洲戰爭ノ推移及今後ニ於ケル米ノ對日態度如何ニ依リテハ我方トシテモ新情勢ニ應ズル一般政策再考ノ要ニ迫

ラルル場合ナキヲ保セザルノミナラズ和蘭側從來ノ態度等ニモ鑑ミ相當ノ具體的代償ヲ確保スルコトナク我方ヨリ進ンデ條約ニ依リ安全保障ヲ與フルコトハ諸般ノ關係上面白カラサルニ付之ヲ避ケ度意嚮ナリ尙ホ對米關係ヨリ見ルモ米國ハ通商條約廢棄ニ依リ我方ニ壓力ヲ加ヘ米ノ在支權益問題等ニ關シ我方が具體的事實ニ依リ其要望ヲ満足セシメザル限り之ト直接關係ナキ日米間政治問題等ノ話合ニ應ゼズトノ態度(比律賓ノ安全保障ヲ我方ニ於テ考慮ノ用意アリト仄メカセタルニ對シテモ之ヲ握リ潰シ居レリ)ニ出デ居ルニ付蘭印不可侵問題ノ如キモ近キ將來ニ於テ果シテ貴電第二六〇號^五末段ノ如キ提案ニ應ズルヤ否ヤ疑問ニ屬スルノミナラズ此ノ如キ提議ヲ爲スニ付テハ慎重ノ考慮ヲ要スル儀ト考ヘ居ル次第ナリ

三、依テ此際往電第一六三號^(イ)及^(ロ)ノ申入ハ成ルベク速カニ御實行相成様致度、尙同電^ニノ點ハ當地和蘭公使ニハ通ジアラザルヲ以テ右御申入ノ際我方ニ領土的意圖ナキコトヲ適宜仄カシツツ必要ニ應ジ此點可然御利用相成度

~~~~~

384

昭和14年11月23日

在オランダ石射公使より  
野村外務大臣宛(電報)

蘭印との經濟關係調整および欧州戰禍の蘭印

波及防止に關するわが方意向を蘭国外相へ申

入れについて

ハーグ 11月23日後発

本省 11月24日後着

### 第三〇四號(極秘)

貴電第一六二號御訓令ノ趣旨二十三日外務大臣ニ申入レ右ハ本月十七日東京ニ於テ「レウフリン」書記官ヲ通シ「パブスト」公使ニモ通セラレタル筈ナリト言ヒタルニ

(一)外相ハ東京ヨリ未タ報告ニ接セス恐ラク書面ニ依ルコトナラント述ヘタリ日本政府ニ於テ具體案ヲ有セラルルトナラハ之ニ依テ商議スルコト異存ナシ但シ自分トシテハツキリ留保シ置キタキハ從業員入國、日本居留民ノ營業問題等ハ國內問題ニシテ商議ニ依ルヘキモノト考ヘ居ラサルニ付是等ニ關スル日本政府ノ提案ヲ必スシモ満足セシメサルヘキコトナリト言ヘリ本使ハ其ハ兎ニ角トシテ本日ノ會談ヲ東京ニ報告ノ上日本政府ノ具體案ヲ訓令ヲ

受ケ之ヲ貴大臣ニ提示スヘシト言ヘルニ大臣ハ之ヲ諒承セリ

(二)本使ハ右貴電一ノ(ロ)ニ附加ヘテ本使ノ知ル限り日本ハ和蘭ノ窮境ニ乘シ蘭印ニ手ヲ出ス如キ意嚮毫モ無キニ和蘭側ノ疑心ハ心外ナリト言ヘルニ外相ハ和蘭ハ戦争ニ「インボルブ」サレスニ通シ得ヘシト信ス從テ蘭印ニ於テモ同様ニ信シ居ルニ付日本政府ニ於テモ御安心アリタシ日本政府ノ對蘭印意嚮ニ付テハ民間新聞等ニ於テ議論サレ居ルモ和蘭政府トシテハ日本政府ノ善意ヲ少シモ疑ヒ居ラス日本ノ「グツドネイバー」ト考ヘツツアリト述ヘ之ニテ會談ヲ終レリ

(三)蘭印ニ對スル我方ノ意嚮ニ付外務大臣トシテ猜疑ノ言辭モ表情ヲモ示ササリシハ當然ノ態度ニシテ從テ本使ハ右貴電ノ二ハ之ヲ持出ササリシ次第ナルカ危機カ一應去リタル今日ニモアリ當初本使ノ狙ヒタル政治的效果ハ外レ本件ハ事務的交渉ニ終始スルコトトナルヘシ御用意中ノ具體案(説明ト共ニ)御電報アリタク同時ニ「パプスト」ニモ篤ト御説明置キアリタシ

(四)和蘭ハ小國乍ラ「バニテイ」アラサル一種ノ矜持ヲ有シ

而モ慎重<sup>(帳カ)</sup>凡張面ナルニ付是等ノ政治的折衝ハ緒口ノ付ケ方ニ工夫ヲ必要トスルヲ痛感ス尙又事務的ナルコトモ蘭印ニ關スル限り拓殖省ヤ蘭印ニ「レフアー」サレ手間ノ掛ルコト往電第二八七號ノ如クニミテ急ニ埒開カサル次第ト御承知ヲ請フ御參考迄

關係電ト共ニ可然ク「バタヴィア」ヘ御通報請フ

~~~~~

385

昭和14年12月16日

野村外務大臣より
在オランダ石射公使宛(電報)

蘭印との經濟關係調整に関する對蘭交渉方針

訓令

別電一

昭和十四年十二月十六日發野村外務大臣より

在オランダ石射公使宛第一八八号

右調整に関する日蘭取極要綱

二 昭和十四年十二月十六日發野村外務大臣より

在オランダ石射公使宛第一八九号

右要綱に関する説明

本省 12月16日發

第一八七號

貴電第三〇四號ニ關シ

一、本省限りノ日蘭取極要綱竝ニ貴使御含迄ノ説明別電第一八八號及第一八九號ノ通りナリ

二、我方トシテハ今次申入ニ依リ不取敢第三國ノ對蘭印干涉ノ氣配ヲ探ルト共ニ從來ノ經濟的要望達成ノ緒ヲ附クル意圖ナリシ處前者ニ就テハ消極的ニハ冒頭貴電ニ依リ一應其目的ヲ達セリト看做シ居レリ

三、經濟的要望ニ就テハ蘭側ノ應酬振り如何ニ依リ直チニ具體案提示ノ意向ナリシモ冒頭貴電、外相ノ態度及刻下ノ國際狀勢等ニ鑑ミ此際ハ寧口商議ノ妥結ヲ急ガズ貴使ノ裁量ニ於テ別電要綱ヲ中心トスル原則的話合ヲ續クルコトニ依テ我方要望ガ實質的ニ如何ナル程度迄達成可能ナルヤノ見透ヲ附クルコトト致度シ

四、別電要綱ハ

(イ)「ク」外相ノ強調セル相互的取極ナルコトヲ期シ

(ロ)同ジク蘭側ノ希望スル輿論取締ヲ織込ムト共ニ

(ハ)蘭印ガ東亞ノ一部ニシテ今後ニ於ケル其繁榮ハ東亞新秩序ノ建設ニ協力シ日蘭印關係ヲ日滿支對和蘭及蘭印ノ大局的經濟關係ヨリ檢討シテ調整ヲ計ルニ非ズンバ

之ヲ期待シ得ザルコトヲ感得セシメ以テ石澤「ハルト」覺書ヲ根據トセル從來ノ蘭側態度ヲ是正セシメ且(二)我方ノ要望ハ相互的、合理的ニシテ英米等ト均等ノ待遇ヲ求ムルニ過ギザルコトヲ印象附ケ以テ將來ノ日蘭提携ニ資セムトセルモノナリ

五、尙「ク」外相ガ我方ノ重視スル從業員入國、邦人營業ノ問題等ヲ商議ノ對象トナシ得ズトスル態度ヲ示セルハ頗ル遺憾ニシテ之ヲ前例ニ徵スルモ營業制限問題ノ如キハ日蘭會商以來商議ヲ重ネタル結果石澤「ハ」覺書ニモ協定事項トシテ明記シアリ又從業員問題ニ付「バタビヤ」、東京及海牙ニ於テ屢々話合ノ行ハレ來リタルハ御承知ノ通りナリ、此等ノ問題ハ貿易關係事項ト等シク純粹ニ經濟問題ニシテ之ヲ一括討議スルハ當然ノ儀ト云フベク之ヲ宛モ通商問題ト關係ナキ國內的政治問題トシテ話合ヲ避クルガ如キ態度ハ却ツテ兩國間ニ政治的摩擦ヲ發生セシムル素因ヲ作ルモノト云フベク我方ノ納得シ難キ所ナリ(尤モ我方要望ガ實質的ニ達成セラルル限り其具現ノ方法ニ付蘭側ノ立場及希望ヲ尊重スル用意アルハ勿論ナリ)

1 大戦勃発に伴う蘭印保全と対蘭経済要請

六、就テハ貴使ハ蘭側ガ劈頭ヨリ右様冷淡ナル態度ヲ示ス限
リ詳細ノ具体案ヲ提示スルモ圓滿ナル商議ハ困難ナルヲ
以テ先ヅ基本的輪廓ニ付話合ヲ進ムル様訓令ニ接セリト
ノ趣旨ニテ別電要綱ヲ中心トシテ可然懇談ヲ重ネラレ度
其結果如何ニ依リ更ニ關係省ト協議ノ上正式具体案ヲ提
示スルコトト致度

七、追而右事情ニ鑑ミ「パプスト」ニ對スル説明ハ貴使ノ回
電ヲ待チテ考慮スルコトト致度

(別電一)

本省 12月16日發

第一八八號

日蘭取極要綱

甲、我方要求

一、通商關係

(イ)輸出制限關係

蘭印ハ日本ノ必要トスル主要物資ニ付輸出禁止又ハ輸
出制限ヲ行ハザルコト、既ニ實施中ノモノニ就テハ出
來得ル限り之ガ緩和ヲ計ルコト

(ロ)輸入制限關係

日本品ニ關係アル現行輸入制限措置ヲ出來得ル限り撤
廢又ハ緩和スルコト

二、入國關係

現行外國人勤勞條例ノ撤廢又ハ緩和

三、企業及投資關係

(イ)現存邦人企業ニ對スル一層ノ便宜供與

(ロ)新規事業(日蘭合辦ヲ含ム)ニ對スル便宜供與

四、輿論取締關係

和蘭及蘭印ニ於ケル蘭字新聞其他ノ排日輿論取締

乙、我方提供

一、通商關係

(イ)輸出制限關係

日本ハ蘭印ノ必要トスル主要商品ニ付輸出禁止又ハ輸
出制限ハ出來得ル限り之ヲ行ハザルコト(原料及燃料
不足ノ爲メ輸出ヲ困難トスル場合アリ)

(ロ)輸入制限關係

蘭印物産輸入ニ關シテハ積極的ニ好意アル措置ヲ執ル
コト

二、入國關係

我方ハ目下在本邦蘭人商社從業員ノ入國ニ關シ何等制限措置ヲ執リ居ラザル處今後共之ヲ行ハザルコト

三、企業及投資關係

(イ)日滿支ニ於ケル既存和蘭權益ノ合理的保護又ハ保護ノ爲ノ斡旋

(ロ)日滿支ニ於ケル蘭側新規投資ニ對スル積極の便宜供與
四、輿論取締關係

日本ニ於ケル邦字新聞等ノ排蘭の輿論取締

(別電二)

本省 12月16日發

第一八九號

說明

一、通商關係

蘭印物資ノ確保ニ就テハ既ニ古屑鐵其他ニ關シ蘭側ノ約言アルモ之ガ實行ニ遺憾ノ點アルニ付之ヲ確約セシメ度、一方我方ハ輸出増進ヲ國策トスルガ故ニ出來得ル限り輸出ヲ禁止又ハ制限セザルベキ旨ノ約束ハ物ニ依ツテハ犧

牲ヲ伴フモノナルモ最大ノ好意の態度ヲ以テ善處スベシ
二、入國關係

外國人勤勞條令撤廢不可能ナラバ實際のニハ本年五月六日石澤「フアン・ローエン」會談要録程度ニハ是非解決シ度意向ナリ

三、企業及投資關係

(イ)現存邦人企業ニ對スル一層ノ便宜供與トハ法律的、形式的ニ歐米諸國ニ對スルト同一ノ均等待遇ヲ爲スノミナラズ進ンデ中央及地方ノ關係行政官ガ排日氣分ヲ捨テ、實質のニ衷心ヨリ我方ニ協力スルコトヲ要望スルモノニシテ右ニ對シ我方ハ連雲港問題其他在支和蘭權益關係ノ懸案解決ニ付誠意ヲ以テ斡旋盡力セムトスルモノナリ

(ロ)新規事業トハ南洋興發ノ企圖シ來レル日蘭合辦事業其他日滿支南洋ノ東亞經濟圈確立ニ關係アル共存共榮の事業ヲ意味ス(我方トシテハ特ニ石油ニ付積極の進出ヲ希望シ居リ和蘭ガ英米ニ對シテノミ特權の待遇ヲ與ヘ日本ニ對シテハBOMノ貧弱ナル鑛區以外ハ一切門戸ヲ閉鎖シ居ル現狀ヲ打破スル爲メニハ時宜ニ應ジ相

當強引ニ交渉致度次第ナルモ我方ニ於テ日米關係打開
工作等ニ主力ヲ注ギツアル此際直チニ本件ヲ持出し
全体ノ話合ヲ危機ニ導クハ不得策ト思考シ居ル處貴使
ノ御見込ニ依リ好機會アラバ可然御言及置相成度）右
ニ對シ蘭側ノ滿支特ニ北支ニ於ケル新規投資ハ我方ノ
最モ歡迎スル所ニシテ能フ限りノ便宜ヲ供與スル用意
アリ

四、輿論取締關係

我方對蘭印輿論惡化ノ根本原因ハ從來蘭側輿論ガ常ニ排
日的ニシテ蘭印官憲ニ於テモ又入國、營業、企業、貿易
等ニ關シ排日的ト認メラルル態度ヲ執リ來レルコトニ在
リ、從テ右原因ニシテ解消セバ我方輿論ハ直チニ改善ス
ルコト明瞭ナルモ（現ニ「パラガイ」「ブラジル」又ハ英
領北「ボルネオ」ノ如ク我方ニ對シ猜疑的排日的態度ヲ
採ラズ在留邦人ヲ好遇スル地方ニ就テハ反動的言論殆ン
ト皆無ナリ）蘭側ガ取締ノ誠意ヲ示スニ於テハ我方モ積
極的ニ協力ノ用意アル次第ナリ

386

昭和14年12月18日

在オランダ石射公使より
野村外務大臣宛（電報）

蘭印との経済關係調整に関する具体的数値目 標など詳細回示方請訓

ハーグ 12月18日後發

本省 12月19日前着

第三五九號

貴電第一八七號ニ關シ（日蘭印國交調整ニ關スル件）

御來示ノ取極要項ハ其ノ趣旨ニ於テ頗ル結構ト存スル處右
程度ノ一般の方針ハ本使ニ於テ從來モ機會アル毎ニ蘭側ニ
說示シ來リタル所ニシテ今回ハ蘭側ニテ相當具體的ノ案ヲ
提示セラルルコトヲ覺悟シ居ル模様ニモアリ此ノ上更ニ抽
象の方針ノミヲ續クルヨリモ直ニ御來示ノ取極要項ノ各項
ニ付今少シク具體的ナル要求及提供ヲ明示シテ之ヲ論議ス
ルコト效果的ナルヘク少クトモ原則的の方針ニ織リ交セテ具
體的ノ例示ヲ爲ササル限り先方ヲシテ本件話合ヲ熱心ナラ
シムル能ハサルヘシト思考ス

就テハ蘭印ヨリ輸入ヲ要スル原料資源其ノ豫定量、進出ヲ
希望スル日本品、勤勞條件緩和ノ具體的目標、現存邦人企

業ノ受ケ居ル不便ノ實例、我方希望ノ新規事業、本邦ヨリ輸出可能ノ蘭側希望品、蘭印產品輸入ノ可能性殊ニ砂糖ニ對シ「コムミット」シ得ル程度等詳細御回電相煩度シ話合ハ繋ギ置クヘキモ御來示ノ話合ハ右御回電ヲ俟チテ開始スルコトト致度キニ付何分ノ儀至急御配慮ヲ請フ
尙本件關係電要旨「バタビア」ヘ御轉電ノ上同總領事ノ意見及希望事項竝ニ其ノ氣付ノ具體的事例電報セシメラレタシ

387

昭和14年12月27日

野村外務大臣より
在オランダ石射公使宛(電報)

蘭印との經濟關係調整に関しては具體案提示
前に一般原則につき蘭側意向確認方訓令

本省 12月27日後9時発

第一九七號

貴電第三五九號ニ關シ

具體案ニ付テハ目下慎重檢討ヲ加ヘ不日完成(在支權益ニ關シテハ英米佛トノ調整ヲ先決トスベキヲ以テ蘭トノ關係決定迄ニハ相當ノ時日ヲ要ス)ノ見込ナルガ本案實行ノ爲

ニハ物動計畫、砂糖政策、爲替及輸出入統制ノ修正ヲ要スル次第ナルニ付關係方面ノ同意ヲ取付クル爲ニハ蘭側ニ於テ往電第一八七號一般原則ニ好意的態度ヲ有シ居レルコトヲ明カニシ置ク必要アリ然ルニ蘭側ガ右原則ニ對シ當初ヨリ全然氣乗ヲ示サザル様ノコトナラバ關係方面ノ同意ヲ得ルニ困難アルノミナラズ蘭側ト交渉ニ入ルモ徒勞ニ終ルコト想像ニ難カラザルヲ以テ貴使ハ不取敢前記往電ノ趣旨ヲ蘭側ニ申入レラレ反響御回電アリ度

388

昭和15年1月17日

有田外務大臣より
在オランダ石射公使宛(電報)

蘭印との經濟關係調整に関する日蘭取極要綱
につき蘭側意向至急確認方訓令

本省 1月17日後11時40分発

第九號(極祕)

客年貴電第三七一號ニ關シ

日蘭印關係ノ最近ノ狀況ヲ大觀スルニ石油初メ我方ノ必要トスル物資ノ輸入ハ大体支障ナク行ハレ我商品ノ輸出ハ歐洲戰亂ノ結果漸増ノ傾向ニ在リ従業員ノ入國ハ一九三八年

一月乃至九月ノ我方調査實績ニ依レバ出願ニ對シ増員六七%、交代九一%、總數七八%ノ許可ヲ獲得シ其後更ニ改善シツツアル模様ニシテ一般在留民ニ對スル態度モ最近ハ若干緩和セラレ蘭側トシテハ成ルベク我方ヲ刺戟セザル様努メ居ル感アリ又歐洲戰爭ノ爲歐洲對蘭印ノ交通貿易ハ困難ニ向ヒツツアリ蘭印トシテモ若シ歐洲戰爭本格化スル場合ハ必需品ノ供給ヲ我國ニ仰ガザル可ラザル次第ニシテ此傾向ハ綿布セメント等ニ付既ニ現ハレ來リ居リ我對蘭印經濟關係ハ特別ノ努力又ハ犠牲ヲ拂ハズトモ漸次好轉ノ趨勢ニアルヲ以テ客年往電第一八八號ノ一般原則(客年往電第一八九號ノ説明ヲ援用セバ通商關係以外ハ相當具體的ト稱シ得ベシ)ニ對シ蘭側ガ好意ヲ示サザルニ於テハ此際物動計畫其他ニ根本的修正ヲ加ヘテ迄全面的國交調整ヲ急グ要ナク寧ろ形勢ノ推移ヲ見守ル方得策ト爲ス意見モアル次第ナリ仍テ貴見ノ次第ハアルモ具體案ノ完成ヲ俟ツコトナク此際先ヅ一般原則ニ對スル蘭側意嚮ヲ確ムルコトト致度尙相當蘭側ノ立場ヲ掬ミタル右一般原則ニ對スル蘭側ノ態度如何ハ來ルベキ仲裁々判條約改訂交渉方針決定ノ爲ノミナラズ歐洲狀勢ノ推移ニ應ジ執ルベキ我對蘭政策決定ノ上ニモ

重大關係アル次第ナルニ就テハ客年往電第一八七號訓令至急御執行ノ上先方應酬振可成詳細回電アリ度

~~~~~

389

昭和15年1月19日

在オランダ石村公使より  
有田外務大臣宛(電報)

# 蘭印保全問題に関する蘭国外相との意見交換について

ハーグ 1月19日後発

本省 1月20日後着

## 第三〇號(極秘)

貴電<sup>(1)</sup>第九號ニ關シ(日蘭印國交調整ニ關スル件)

一、右ハ昨十八日接到其ノ前日外相ニ面接ノ際本使ヨリ我内閣成立ノ話ヲ爲シ米内總理及有田外相ノ人柄ヲ熟知スル本使ハ新内閣ニ多大ノ希望ヲ繫クモノナリト效能ヲ述ヘタル上夫レニ付テ本使個人トシテ思ヒ付キタルハ蘭印ノ「インヴァイオラビリテイ」保障ノ問題ニシテ若シ本使ヨリ右保障方幾多具申セハ新内閣ハ切實ニ之ヲ考慮スベキカト思ハルル處蘭國政府ハ之ヲ受容レラルルヤ否ヤ本使カスク「サヂエスト」スル所以ノモノハ近來日蘭印



ノ關係ニ付兎角ノ流言橫行シ兩國ノ爲有害甚シキニ付之ヲ一掃シ兩國國交ヲヨリ安固ナル「ベイス」ニ置キタシトノ本使ノ衷情ヨリ出ツルニ外ナラスト切り出シ見たルニ外相ハ案外反響ヲ示シ貴使ノ「サゼスシヨン」ハ寔ニ多トスル所ナリ從來御話セシ通り和蘭ハ獨立ヤ領土等ニ付外國ノ保障ヲ受諾スルヲ好マサル國是ナルカ折角好意アル御申出故閣僚ト相談致度キニ付御待チアリタシト乘氣ヲ見セタル後右ノ如キ國是ニ鑑ミ若シ受諾セヌコトニ決シテモ貴使ノ厚意ヲ無ニスル次第ニ非サル事情ヲ諒トセラレ度シト例ニ依リテ留保ヲ爲シタルカ本使ハ之ヲ諒トスヘキ旨答ヘ置キタリ

二、右保障ノ形式ニ付本使ハ「條約」ノ語ヲ避ケ by writing ナル語ヲ用ヒ量シ置キタルカ先方ハ writing ノ性質ヲ追及セサリキ尙會談中本使ハ「インヴアイオラビリテイ」ノ語ヲ用ヒタルニ右ハ蘭側ノ嫌ヒ居ル不侵略條約ノ如キモノヲ毫モ意味スルモノニ非スト註釋セルニ外相ハ然ラハ「インテグリティ」カ適當ナルヘシト言ヘリ尙本使ハ日本トシテハ蘭印ノ「ステイタス、クオ」維持ヲ希望シ之ニ影響スヘキ事態ノ發生ヲ欲セス從テ和蘭カ獨逸

ヨリノ侵入ヲ受ケ自然戰禍カ蘭印ニ及フカ如キコトヲ欲セストノ前言ノ趣旨ヲ繰返シタルニ外相一々之ヲ諒承セリ

三、<sup>(2)</sup>以上本使ノ申入ハ時期カ時期ナル爲カ案外先方ニ好感ヲ與ヘタリト考ヘラレタルカ追テ先方ノ回答ヲ俟ツテ報告ノ積リナリシ處貴電第九號ニ接シ茲ニ電報スル次第ナリ假ニ先方カ受諾ノ意ヲ示シタル場合本使トシテハ日本政府ニ上申シタル處政府ハ保障差支無キモ國內事情モアリ對蘭印具體問題ノ改善ヲ先ニスル必要アリト訓令シ來レリトテ貴電御訓令ノ執行ヲ爲スニ都合好ク又先方カ保障受諾ヲ肯セサル場合ニモ御訓令執行ハ從來ノ話ノ當然ノ續キトシテ之ヲ爲スニ差支無キ次第ナルニ付此ノ邊ノ措置振リハ本使ニ御委セ請フ假ニ失敗シテモ現在ヨリモ惡キ事態トハナラサル見込ナリ

四、客年貴電御訓令(第一八八號)ハ是非之ヲ執行セヨトノコトナレハ敢テ辭セサル次第ナルモ御訓令要項ハ結局「ブランクチエツク」ニ署名ヲ要求スルカ如キモノニテ「チャツカリ」屋タル和蘭ノコトナレハ體良クアシラハルルニ過キサルヘキヲ虞ルルニ付多少時日ヲ要スルモ具體案

ヲ作成セラレ貴電要項ト併行シテ交渉シ得ル様御配慮ヲ  
請フ

五、尙保障ノ場合ノ用語形式等ニ付御意嚮至急承知シ置キ度  
シ

390 昭和15年2月(1)日 在オランダ石射公使より  
有田外務大臣宛(電報)

蘭印保全問題に関する蘭国外相回答について

ハーグ 発

本省 2月1日着

第五〇號

「クレツフエンス」外務大臣ハ蘭印領土保障問題ニ關シ私  
信ヲ以テ要領左ノ通り回答越セリ

「太平洋ニ關スル日、英、米、佛四ヶ國間ノ條約締結セラ  
レタル際和蘭及葡萄牙ノ太平洋ニ有スル領土ニ對スル蘭、  
葡、兩國ノ權利ハ一九二二年二月五日、英、米、佛ニ依  
リ保障セラレタル處右保障ハ和蘭ガ四ヶ國條約ノ締約國タ  
ラザリシ關係上誤解ヲ避クル爲メノ特別ノ必要アリタルニ  
基クモノナリ、而シテ右保障ハ其效力ヲ失ヒタリト認ムル

理由ナク、假令四ヶ國條約ガ失効セリト假定スルモ和蘭ニ  
對スル保障其物ハ必ズシモ失効スルモノニ非ザルベシ、更  
ニ一步ヲ進メテ和蘭ニ對スル保障其物モ失効セリト假定ス  
ルモ其場合事態ハ一九二二年以前ノ狀態ニ還ルノミニシテ  
和蘭トシテハ歐洲ニ於ケル本國領土タルト亞細亞及亞米利  
加ニ於ケル植民地タルトヲ問ハズ其領土ニ就テハ特殊ノ理  
由ナキ限り保障ヲ希望セザル次第ナリ

貴公使ノ個人的「サゼスシヨン」ハ之ヲ「アツプレシエー  
ト」スルト同時ニ御好意ノ動機ハ善ク諒解セルニ付本件ハ  
充分ノ注意ヲ以テ考慮セル次第ナルガ事情上述ノ通りニ付  
不惡御諒承相成度」

391 昭和15年2月2日 在オランダ石射公使より  
有田外務大臣宛(電報)

蘭印との経済関係調整に関する日蘭取極要綱  
を提示し蘭側意向を照会について

ハーグ 2月2日後発  
本省 2月3日後着

第五五號

往電第五〇號ニ關シ

二日外務大臣ト會見シ先ツ本使ヨリ右往電ノ大臣私信ハ興味ヲ以テ讀ミタル旨ヲ述ヘ本使ノ意嚮ハ曩ニ一九二二年ニナシタル所ヲ日本側ヨリ「レアシユア」シ和蘭側之ヲ了承スルカ如キ案ヲ考ヘ居タル次第ナルカ兎モ角本使ノ意ノアル所ハ了解セラレタルヘシト述ヘタル處外相ハ和蘭ノ國是及此ノ種保障ハ何度モ繰返ササル方有效ナルヘシトノ見地ヨリ應諾シ得サリシ次第ニシテ貴意ハ頗ル多トスル所ナル旨ヲ答ヘタリ

次テ本使ヨリ客年來會談シ來レル所(往電第三〇四號第三七一號)ノ續キトシテ東京ヨリ訓令ニ接シタル旨ヲ前提シ客年貴電第一八八號ヲ「バラ」シテ英譯セルモノヲ「兩國間ノ取極ノ爲討議スヘキ主要事項」ナリトシテ提示説明セル處外相ハ一讀後右ハ頗ル廣範圍ニ涉リ即答ハ困難ナルカ篤ト研究ノ上討議ノ基礎ト爲シ得ヘキヤ否ヤ追ツテ回答致スヘシト答ヘ尙本使ヨリ本件ハ東京ニ於テモ「パブスト」公使ニ提示セラルヘキモノト信スル旨ヲ述ヘタル處(右ハ適當御措置相成度シ)外相ヨリ討議ヲ東京及海牙ニ於テ行フコトハ事ヲ面倒ニスルニアラスヤトノ質問アリ本使ヨリ

討議ハ當地ニ於テ之ヲ爲シ細目等ハ係官ヲシテ當ラシムル所存ニシテ「パ」公使ニハ隨時説明ヲ與フル趣旨ナリト答ヘ置キタリ

「バタヴィア」ヘ轉報アリタシ

~~~~~

392

昭和15年2月3日

在バタヴィア齋藤總領事より
有田外務大臣宛(電報)

蘭印の石油に関する米國總領事との意見交換

について

バタヴィア 2月3日前発

本省 2月3日後着

第五五號

本二日本官米國總領事ト會談ノ際同總領事ハ日本側ノ蘭印ニ於ケル經濟的發展竝ニ石油問題ニ觸レタルニ付本官ハ例ヘハ我方カ「コロニヤル」及BPM石油ヲ購入セントスル場合實際上其ノ取引ハ紐育「スタンダード」及倫敦「アジアチック」石油本社ニ於テ決定セラレ居リ從テ萬一米國側カ對日經濟壓迫ノ舉ニ出テンカ「コロニヤル」石油ヲ購入シ得サル惧アリ且最近BPMノ對日輸出ノ半減竝ニ當地ニ

於ケル重油ノ賣止ヲ爲シタルカ如キ事例モアリ英國側トシ
テモ此ノ點ニ於テ異ル所ナカルヘク從テ日本トシテハ自衛
的ニ國防上ノ絶對必要トスル資源ニ對スル「アクセス」ヲ
得ンカ爲ニ蘭人側トノ石油採掘共同企業ノ權利ヲ得ントス
ルハ當然ニシテ右ハ全然經濟的意圖ニ出テ毫末モ領土の野
心ナシト斷言シ得ルモノナリ而シテ日本カ石油ヲ必要トス
ルコトハ絶對的ナルヲ以テ若シ米國カ日本ニ對シ石油ノ禁
輸ヲ斷行スルカ如キコトアルニ於テハ其ノ反動ハ何處カニ
於テ起ルヘキヲ避ケ得サルヘシト述ヘタルニ同總領事ハ自
分モ同意見ニシテ曩ニ國務省ニ對シ同様趣旨ノ卑見ヲ具申
シ置ケリト述ヘ居タリ

尙其ノ際同總領事ハBPMノ日本向輸出ノ減少セルハ印度
及馬來半島方面ヘノ賣込ニ依ルモノノ如ク又假令英米ニ於
テ石油ノ對日禁輸ヲ斷行スルカ如キコトアリトスルモ前記
蘭印兩石油會社ハ引續キ對日輸出ヲナスモノト思ハルト附
言セリ(此ノ點客年九月經濟省商務局長ノ本官ニ語レル所
ト一致ス)何等御參考迄

蘭ヘ轉電アリタシ

御見込ニ依リ英、米、紐育ヘ轉電アリタシ

「スラバヤ」、「メナド」、「メダン」、新嘉坡、馬尼刺へ暗送
セリ

~~~~~

393

昭和15年2月12日

有田外務大臣より  
在英國重光大使他宛(電報)

蘭印およびフィリピンとの不可侵条約締結問  
題に関する有田外相の衆議院での答弁通報

本省 2月12日午後8時20分発

合第二八三號(至急)

九日衆議院予算總會ニ於ケル三宅代議士ノ質問(主トシテ  
蘭領印度及比律賓トノ不可侵條約締結問題)ニ對スル本大  
臣ノ答辯要旨

南方諸地方トノ經濟關係ヲ密接ニシテ行クコトガ必要デア  
リ又日本トシテ希望スル所デアルコトハ一日ノ外交演說中  
ニモ特ニ述ベテ置イタ只今述ベラレタヤウニ日本トシテハ  
其ノ方面ニ發展シ其ノ方面ノ資源ヲ利用シテ行クトイフコ  
トハドウシテモ是カラ爲サナケレバナラス所デアルト考ヘ  
テ居ル南方諸地方ニ對シテ其ノ方面バカリデハナイガ日本  
ガ領土的野心ヲ持ツテ居ルカノ如ク宣傳シ或ハ斯カル誤解

ヲシテ居ル向キガ從來少クナイ隨テ今日迄斯ル誤解ヲ解ク  
コトニハ十分努メテ居ルガ色々ナ關係カラソレ等ノ疑惑ガ  
全然去ツタトモ言ヘナイヤウデアリ又色々ナ事件ガ生ズレ  
バソレニ刺戟サレテ少シ薄ライダ疑惑ガ更ニ濃クナルト云  
フヤウナコトモアリ得ル隨テ何等カ日本ハアノ方面ニ對ス  
ル領土の野心ガナイト云フ風ナコトヲ明カニシサウシテ斯  
ルコトヲ信ゼシメ得ルヤウナ方法ガアルナラバ是ハ勿論施  
シテ行クベキコトダト思フ不可侵條約デモ提議シタラト云  
フ御説ハ洵ニ御尤モデアルガ歐羅巴ノ諸國中ニハ其ノ傳統  
的中立政策カラシテ他國ト不可侵條約ヲ結ブコトヲ好マナ  
イ國ガ尠カラズアルノデ日本トシテハ勿論先方ガサウ云フ  
風ナコトニ應ズル氣持サヘアレバ締結ニ付テ考ヘテ毫モ差  
支ヘナイノデアルガ前述ノ如キ國ガアルト云フコトダケヲ  
御考ノ中ニ入レテ置イテ戴キタイ何レニスルモ南方諸地方  
ニ對シテ日本ハ領土の野心ヲ持ツテ居ナイノダ併シ日本ト  
シテハ經濟のニハ發展シテ行カナケレバナラヌノダト云フ  
コトヲ能ク理解セシメルヤウニ政府トシテハ努力シタイト  
考ヘテ居ル

編 注 本電報の宛先は「南洋、歐洲及米國向普通情報（宛先

ハ電信課ニ於テ可然御配慮乞フ）」となっている。

~~~~~

394

昭和15年2月23日

在バタビア齋藤總領事より
有田外務大臣宛（電報）

蘭印からの石油供給確保に関し意見具申

バタビア 2月23日後発

本 省 2月23日夜着

第九七號

米國⁽¹⁾ノ對日禁輸ニ對スル對策ニ關シ

昨今議會等ニ於テ相當論議セラレ居ルモ其ノ成案アリト稱
セラルルモノカ多ク希望の推理ニシテ具體的の手當無キカ如
ク看取セラルル處之ヲ石油ニ付テ云フモ萬一米國カ對日石
油禁輸ヲ爲ス場合其ノ供給ノ一部ヲ墨西哥ニ仰クトスルモ
我需要ヲ充タシ得サルコト明カニシテ然ラハ其ノ殘部ヲ蘭
印ニ求ムル外無キモ何等具體的の交渉ノ纏リタルモノアル
ヲ承知セス往電第五五號ノ如ク當領石油ハ和蘭會社ノ經營
ニ係ルモノナリト雖事實上英米資本ニ依リ夫々左右セラレ
居ルモノナルヲ以テ和蘭側ノ稱スルカ如ク之等石油會社カ

政府賣却命令ヲ拒否スルモノニアラストノ言ニハ一概ニ信賴ヲ措ク能ハス蓋シ右石油會社カ其ノ出資國タル英米ノ利益ヲ第一義ト爲スコト當然ニシテB、P、Mノ如キハ先ツ以テ右石油ヲ印度、馬來等英領ニ振向ケントスル尤モナル口實ヲ有スヘク況ンヤ最近新聞ノ傳フルカ如ク「イラク」羅馬尼其ノ他近東ニ戰火ノ及フ場合蘭印石油力之ニ代ルコト明カニシテB、P、Mカ英國ニ對スル供給契約ノ爲實際上餘力ナシト稱スル場合和蘭カ之ヲ無視シテ對日供給ニ振向クルコトヲ強要シ得サルヘク「コロニヤル」モ同様口實ヲ設ケルコトハ容易ニ想像シ得ヘシ

一方日本トシテハ石油ノ供給ヲ確保スルコトハ國家存亡ニ關スル重大問題ナルヲ以テ米國ヨリ禁輸ヲ受クル場合已ムナク蘭領印度ヨリ之ヲ強取セサルヘカラサル羽目ニ陥リ而シテ斯ノ如キ場合英米ハ武力ヲ以テ之ヲ阻止スヘキハ必然ナルヲ以テ米國ノ對日禁輸ハ取りモ直サス英米蘭トノ武力衝突ヲ惹起スルモノナルコトヲ覺悟セサルヘカラス然レトモ現在ノ狀態ニ於テ石油ノ爲トハ言ヘ斯ノ如キ事態ノ發生ヲ斷シテ避クヘキハ當然ニシテ況ヤ英米等ト戰火ヲ交ヘツツ蘭領印度ノ石油ヲ確保セントスルハ難事中ノ難事ニ屬シ

其ノ遂行ニ付到底成算ナカルヘキヲ以テ假令米國ヨリ石油禁輸ヲ食フ場合アリトスルモ平和裡ニ蘭領印度ヨリ石油ヲ購入シ得ル事態ヲ豫メ設定シ置クハ現下ノ狀態上且又米國トノ正面衝突ヲ回避スル上ニモ亦肝要ナリト存ス右ニ關シテハ本省ニ於テモ既ニ御研究濟ノコトトハ存セラルルモ本官ノ思付トシテハ先ツB、P、M及「コロニヤル」ト相當長期間(十年)ノ年額百萬噸位ノ買油契約ヲ結ヒ置ク要アリ右ハ供給地分散主義ニモ合致スルノミナラス蘭領印度トノ貿易關係増進トモナリ經濟省側ノ常ニ口ニスル日本側力常ニ受動勘定トナルトノ口實ヲ防キ且又買油契約アル場合ハ和蘭政府トシテモ英米石油會社ニ對シ賣渡命令ヲ發シ易カルヘク又世人ノ宣傳セルカ如ク獨逸カ和蘭ニ侵入スルカ如キ場合英國ハ先ツ「パレンバン」ヲ襲フヘシト爲スモ斯ル場合ニモ我方トシテ相當ノ發言權ヲ有スヘク要スルニ買油契約ノ存在ニ依リ法律的ニモ將又政治的ニモ我方萬一ノ場合ニ於ケル立場ヲ著シク強化スルモノナルニ付價格ニ於テ多少我方ニ不利ノ點アリトスルモ前記最惡ノ場合ノ犠牲ヲ考慮セハ此ノ際一種ノ保險料トシテ之ヲ忍ハサルヘカラサルモノト思考ス依テ三井其ノ他適當ノ本邦商社ヲシテ速ニ

當地B、P、M及「コロニヤル」本社ト直接交渉ヲ開始セシムル様措置セラレ其ノ效果ナキ場合改メテ外交交渉ニ移シ和蘭政府ノ仲介ヲ求ムルコト極メテ時宜ニ適スルモノト愚考ス尙往電第九五號砂糖買付問題成功スルニ於テハ本件石油交渉ノ上ニモ蘭政府側ノ好意ヲ期待シ得ヘシ御參考迄蘭、「スラバヤ」ヘ暗送セリ



395

昭和15年2月23日

在オランダ石射公使より
有田外務大臣宛(電報)

日蘭印經濟關係調整問題に關する蘭側回答を

同国外相らへ督促について

ハーグ 2月23日後発

本省 2月24日前着

第一〇七號

貴電⁽¹⁾第四八號ニ關シ(日蘭印國交調整ニ關スル件)

一、一昨二十一日外相トノ定例會見ノ際蘭政府トシテ何ウ決定セラレタルヤ承知シタシト督促シタルニ外相ハ御申出ノ要項ハ主トシテ蘭印ニ對スル頗ル「コンプレヘンシブ」ナル問題ナルヲ以テ先ツ植民省ヨリ蘭印政府ノ意見

ヲ求ムルコトナレリ蘭本國ト蘭印トノ關係ハ日本ノ其ノ植民地ニ對スル如ク中央集權的ニアラス從テ本國政府トシテハ蘭印政府ノ「アドバイズ」ナシニハ本件ニ付キ確定的ナ御返事ヲ致シ難キ事情了解ヲ請フト答ヘタリ

二、本二十三日「ウエルター」植民大臣ヲ往訪シ從來本使ヨリ外相ヘ申入ノ次第及前項會談ノ次第ヲ告ケタル上日本政府ハ本件ノ成否ニ頗ル重キヲ置キ居リ本使モ亦日蘭間ノ實際的關係ヨリ多ク改善スルコトヲ自己ノ使命ト考ヘ努力シ居ル次第ナルニ付テハ本件ニ付政府部内ニ於テ最大ノ發言權ヲ有セラルル貴大臣ノ協調ヲ御願ヒスト述ヘタル處「ウエ」大臣ハ貴使ノ外相ヘノ御申出ハ能ク了解シ居レリ和蘭政府ハ本件御申出ニ對シ「モストシリアシコンシダレーシヨン」ヲ加フルコトニ決定セリ日本ト蘭印トノ關係ノ圓滑化ハ自分ノ最モ苦心スル所ニシテ兩國ハ「パシフィックベース」ノ上ニ共存共榮ヲ樂シムヘキモノナリトハ自分ノ持論ナリ尤モ第三國ニ對スル待遇ノ關係モアリ又特ニ蘭本國產業保護ノ關係モアリ(例ヘハ日本ノ織物ヲ無制限ニ蘭印ニ輸入スレハ蘭本國ノ纖維工業ハ全滅セサルヲ得ス)種々困難ナル問題ヲ含ムモ

御申出ノ件ハ自分トシテ出來ル丈ケ「コンシダー」スル心組ナリト言ヘリ本使ハ蘭政府ノ困難トセラルル所ハ了解シ得ラルルモ双方共出來ル限りノ歩ミ寄り點ノ發見ニ努力シタシト言ヘルニ「ウエ」大臣ハ自分モ勿論其ノ氣持ナリト答ヘタリ

(註)前記植民大臣ノ持論ハ從來本使トノ會談ニ於テ常ニ口ニセル所ニシテ「パシフィックベシス」ノ共存共榮トハ蘭印ハ太平洋の廉價ノ工業品ヲ日本ヨリ輸入シ日本ノ必要トスル蘭印產物ヲ日本ニ提供スルノ意ナリ

三、⁽²⁾植民大臣ハ蘭印政府ヘハ本件ヲ書面ニテ約一週間前空輸ニ付セリ蘭印政府ニ於テモ之カ研究ニ時日ヲ要スヘキニ付貴使ヘノ回答ハ暫ク猶豫ヲ請ハサルヲ得スト言ヘリ

四、右ノ「プロセス」ハ客年往電第三〇四號ノ四項豫想ノ通りニシテ本使ヨリハ催促ヲ繰返スヘキモ急ニハ埒明カサルヘシト思ハル左リトテ別ニ打ツヘキ手モ無キ次第ナルカ他方「バタビヤ」總領事ニ於テ蘭印總督及關係當局ニ對シテ我方ノ意圖ヲ説明シ本國政府對シ^(トモカ)少シニテモヨリ「フエボラブル」ナ意見ヲ具陳セシムル様工作スルコトト致度尙右回答ヲ俟ツコトナク此ノ暇ニ我方具體案ヲ立

案請フ

五、植民大臣ハ外相ノ事務家的ナルト異リ政治家的ナル爲カ本使トノ會談モ從來トモニ甘口ノ氣味アリ現實ノ問題トナレハ口通りニハ動カサルヘシト存セラルルモ本件ニ關スル植民大臣トシテノ發言權ニ鑑ミ同大臣ノ立場ヲ困難ナラシメ又ハ蘭印ニ種々口實ヲ與フルカ如キハ此ノ際我方トシテ充分慎ムコト必要ナリト存セラル

~~~~~

396

昭和15年3月30日

有田外務大臣より  
在バタビア齋藤總領事宛(電報)

蘭印重要物資の買付け状況につき通報

本省 3月30日発

第一一三號(極秘)

重要物資ニ關スル英米依存脱却ノ趣旨ヲ兼ネ日蘭印貿易調整ニ資スル目的ヲ以テ石油、各種礦物其他ノ買付契約ヲ成ルヘク日蘭通商交渉ニ入ル前ニ締結スル方得策ト認メ先般來關係各省ト極秘裡ニ協議中ノ處今日マデノ成行貴官限りノ御含マテ左ノ通申進ス

一、石油ニツイテハ海軍省ニ於テB P Mノ本邦ニ於ケル販賣



機關タル「ライジングサン」ト適當ナル本邦商社トノ間ニ原油(本邦ニテハ原油ヲ欲ス)買付ニ關スル長期契約方交渉セシムル筈ナルカ「コロニヤル」關係ノ「スタンダード」トノ交渉ニツイテハ目下研究中ナリ

就テハ貴地滞在中ノ佐藤カ蘭印石油業者ニ接觸スルコトハ此際差控エシムル等適宜御指導相成度

ニ、錫ニツイテハ鑛石ノ方カ有利ナリト思考シ居タルニ幸「ピリトン」社長「ハンデンブロック」本月二十五日來朝セルニ付三菱ヲシテ折衝セシメタル處「ブロック」ハ何レ現地ニ到リ諸種ノ事情研究ノ上三菱ノ現地代表者ト話合フヘキ旨答タル由ナルカ實ハ「ピリトン」鑛石ハ歐洲戰勃發以來全部彼南ニ送リテ精鍊シ居ルヲ以テ本件契約成立ニハ困難アルヘシト存セラルルカ現地ニ於ケル交渉方針ニツイテハ迫電ス(「ブロック」ハ四月十日頃「スラバヤ」着直チニ貴地ニ赴ク由ナルカ何レ蘭印政府ノ意向ヲモ聽ク積リナルヘシト思考ス)

三、「ボーキサイト」、「ニツケル」、「クローム」、鐵鑛ニツイテハ「ピリトン」會社ト日蘭商會社トノ間ニ客年八月契約成立「ボーキサイト」ハ期間ヲ二十五ヶ年トシ一

ヶ年ノ買付量本年二十五萬噸明年以後四十萬噸ツツナリ「ニツケル」其他ニツイテハ期間數量決定次第迫電ス

尙OBMノ「ニツケル」鑛ハ既ニ大洋鑛業ニテ一ヶ年五萬噸ツツ買付契約(期限ナシ)ヲナシ現ニ實行中ナリ

四、護謨ニツイテハ一ヶ年一萬五千噸ツツ長期買付方決定セルニ付三井ヲシテ貴地蘭商トノ間ニ契約セシムルコトトナルヘシ

蘭ヘ轉電セリ

397 昭和15年4月13日

在オランダ石射公使より  
有田外務大臣宛(電報)

# 蘭印保全の声明發出意見具申

ハーグ 4月13日前發

本省 4月13日後着

第二〇八號(館長符號扱)

當方面ノ情勢上蘭印問題ハ一層「シリアス」ニ考慮スヘキ時期ト思考スル處本使ノ卑見トシテハ矢張り客年往電第二六〇號申進ノ通り我方トシテハ東洋ノ場面ニ戰禍ノ波及ヲ許サストノ建前ニテ時期ヲ失セス(獨逸ノ蘭國侵入ト同時

ニ) 蘭印ニ對スル Hand off ヲ我國策トシテ聲明スルヲ上策ト信ス右聲明ハ比律賓トノ關係モアリ又威力上ヨリ見テ米國ト共ニスルヲ可トスルモ最近ノ日米關係ヨリ見テ右見込ナケレハ我方單獨ニテ逸早く聲明ヲ爲シ米國ニ先ンセラレサルコト肝要ナリ要ハ蘭印ニ對スル根本解決ヲ後日ニ讓リ差當リ蘭印ニ對シテハ我方自ラ Hand off ノ態度ヲ執ルト同時ニ列國ニ對シテモ同様ノ政策ヲ揭示シ以テ後日ヲ期スルニ在リ支那事變ノ爲力ヲ用ヒ過キタル帝國トシテハ南洋方面ニ第二ノ「アドベンチュア」ヲ敢テスルカ如キハ嚴ニ今其ノ時期ニアラスト思考ス

「バタヴィア」ヘ轉電アリタシ

英、白、獨、伊ヘ轉電シ、佛ヘ暗送セリ

